

題 櫻

特別
A5
6590
66

土佐の海沿き破波の櫻

糸をよめり傳へる川櫻

櫻枝の節も鳥のほくさぬを

おれも下ふ二木や神作

櫻へ人倦く早もそ葉の落

さへく候も櫻子成りて春

糸よみし神もさるし山さく

月の懸のたへし櫻の山花

はく候も動ぬやや海も

葉ありに葉を草子地あり

流せりや人の流や 櫻川

鞠あくる壱の心も櫻の

梅ありて櫻の心と成りて

行里の市も花よさくも

大空とよきた櫻のりり

秋さへに陸の空も山さく

櫻ありて花や伝ふる人

は末ありて思ふやと山さく

は末ありて思ふやと山さく

扇の香の如きを枕の桜の如く

蝶の如く不常の桜の如く

貝吹の先達ば山や山さへ

あふ原の桜やきしや留免女

むしやと風や一擲月桜

衣更きの山や桜の気もさへ

糸ふくむ桜や運球えさへ

指よりこゝろをねり桜持

様子持も揺伸てえり桜も

小所^{ゆり}ゆりて糸を揺ゆや山桜

清明のそと露りしは東山

糸の味もや淡き桜のつゆ

をこ^と他^と一^と櫻^となる^て春^とと^種

月を^て櫻^とあつ^て夜^の如^く

大の糸も咲き地み^る櫻も

うら^ら美^とと出^る路^りや^櫻

糸入^る見^るや^籠

古^の花^を花^の子^をも^の櫻^も

糸入く見るや籠る

古^く流^{りゅう}正^{せい}徳^{とく}のま^まの^の桜^{さくら}の^のぬ

馬^ま籠^{かご}の^の羽^はの^のま^まの^の桜^{さくら}の^のぬ

鳥^{とり}の^のま^まの^の山^{やま}の^の桜^{さくら}

山^{やま}の^の暖^{ぬく}の^のま^まの^の桜^{さくら}

さ^さの^の暖^{ぬく}の^のま^まの^の桜^{さくら}

仕^し合^あや^や旅^{りょ}の^のま^まの^の桜^{さくら}

桜^{さくら}の^のま^まの^の桜^{さくら}

花^{はな}の^のま^まの^の桜^{さくら}

似^に地^ぢの^のま^まの^の桜^{さくら}

次^{つぎ}層^{へい}の^のま^まの^の桜^{さくら}

桜^{さくら}の^のま^まの^の桜^{さくら}

す^すの^のま^まの^の桜^{さくら}

日^ひの^のま^まの^の桜^{さくら}

木^きの^のま^まの^の桜^{さくら}

日^ひの^のま^まの^の桜^{さくら}

